

1 研究テーマ

『豊かな関わりの中で達成感を味わうことができる保健体育学習の在り方』
～山鹿型授業の確立を目指して～

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるためには、それぞれの種目や特性に触れさせ、その楽しさを味わわせる学習指導の実践が必要である。そして、その学習過程には教師と生徒、生徒同士の関わりが不可欠である。そこで、各単元で多様な言語活動を展開し、課題の解決に向けて仲間と助言し合う活動（共同学習）を学習計画に位置付ける。教師の適切な支援のもと、仲間と試行錯誤しながら共に学び、共に認め合いながら技能を向上させ、自分の役割を理解し責任を果たす態度を育てるとともに、思考力・表現力・判断力等の育成をねらいとしていきたい。そして、豊かな関わりによる学習活動（①ICTの効果的な活用 ②協同学習）によって、技能向上に効果的にはたらく教え合い学習の活性化を図り、できた喜び（達成感）を実感できる保健体育学習の在り方を探っていく。

2 研究組織

○会 長 松永 博文（菊 鹿） ○副理事長 田島 信哉（米野岳）
○理 事 長 磯部 拓紀（山 鹿） ○研究理事 松江 愛佳（鹿 本）

3 活動状況

月	日	研究部会	活動の概要
5	11	総会・研究部会	○役員選出 ○市研究テーマ・努力点決定 ○年間活動計画の確認
7	24	夏季研修会	○研修1 講話・実技「中学校保健体育指導力向上研修会復講」 【保健分野】講師：山鹿市立山鹿中学校 内田 正典 教諭 【体育分野】講師：山鹿市立鹿本中学校 上野 啓和 教諭 ○研修2 講話・実技「効果的なトレーニング方法とスポーツ傷害の防ぎ方」 講師：熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法士 中門 啓一 氏
10	11	半日研	○研究授業 山鹿市立鹿本中学校 第3学年1・2組 丸山 喜寛 教諭 保健分野 「健康な生活と疾病の予防」がんの予防 上野 啓和 教諭 「E 球技」 イ ネット型 バドミントン ○授業研究会
1	29	半日研	○研修1 「今年度の反省と次年度への志向」 ・今年度の取組の振り返り ・次年度への志向 ○研修2 「班別協議～球技(各世界大会開催を話題に)～」 ・授業づくり「タグラグビー」「ハンドボール」（略案作成） ・各学校の実践紹介、情報共有

4 研究の概要

(1) 夏季研修（保健体育科教師に求められることの検証）

夏季研修では、中学校保健体育指導力向上研修会の復講を行った。保健分野、体育分野ともに学習指導要領移行に伴い、生徒の思考力・表現力・判断力等の育成をどのように高めていくのか手立てを考える機会になった。また、熊本機能病院から中門啓一先生に中学生時期に多い傷害について講話をいただき研修を行った。現代の中学生における生活リズムや習慣化されている行動にも関連があり、実態に応じて運動の実践を行うことが重要であることが分かった。教師も効果的なトレーニングを体験し、共通理解のもと各学校での実践に生かすことができた。



(2) 班別協議～思考力・表現力・判断力等を育む手立て～

昨年度までのテーマに加え、生徒の思考力・表現力・判断力等の育成をどのように実現させていくのか、その手立てについて研究を行った。研究授業では、保健分野、体育分野ともに、教材や場の工夫がされており、生徒が主体的に学び合う姿を共有することができた。

授業づくりでは、ラグビー、ハンドボールの世界大会開催に伴って興味・関心が高まる時期に、どのように授業を実践していくのかを検証した。アクティブラーニングの視点からも互いの実践を振り返りながら授業づくりを行い、学校や生徒の実態に応じて実践するきっかけとなった。



5 まとめ

生徒の思考力・表現力・判断力等には無限の可能性がある。その力をどのように発揮させ、身につけさせていくのが、保健体育科教師の使命の一つである。各学校で実践している内容を情報共有し、新たな手立てや展開を構築することができた。「誰でもできる保健体育の授業」を再現するために、これまでの諸先輩方の蓄積をもとに、研究を重ねていくことを目指す。また、山鹿型授業スタイルの視点で、学校や生徒の実態に応じ内容や展開を再検討する。多くの生徒に質の高い授業を提供し、生涯にわたって、運動やスポーツに親しむことができるように、引き続き研究していきたい。